

## 飛行機に乗ったドン・キホーテ 第28回

私のスペイン定年留学②

### 「多様なクラス仲間たち」

マラガ大学。正式には UNIVERSIDAD DE MÁLAGA, CURSOS DE ESPAÑOL PARA EXTRANJEROS(マラガ大学付属外国人向けスペイン語コース)。校舎は国鉄のマラガセントロ駅から幅15メートル以上もある歩道を歩いて約10分。地階と高天井の2階建てで、10~20人用の小教室と50人以上の大教室が計20ほどある。月曜日から金曜日まで1日4時間の集中授業。授業料は月に約300ユーロ。ここが終わったら私が入ろうとした文学部などの校舎は、マラガ市のやや郊外にありました。

事務室で「コース」の受付を済ませると、まずクラス分けのための筆記試験を受けることになりました。受験者は約100人。見たところ、ヨーロッパのほとんどの国の人々とアメリカ系、そしてアジア系が少し。筆記試験は文法を中心とした60題の質問。続いて別室で1人ずつ会話の面接試験。自己紹介から始まり、なぜスペインに来たのか、



スペイン語との関係、マラガが好きか、昨日したことを簡単に述べよ、といった質問。私は34歳から初めてスペイン語に取り組んだこと、聖教新聞パナマ特派員時代の体験、将来、セルバンテスの『ドン・キホーテ』を勉強したい、といった内容を伝えました。

翌朝、校舎入り口の掲示板にはクラス分けのリストが貼られていました。6つのレベルに分けられ、自分はC2<中級の上>に名前がありました。指定のC2の教室へ。仲間は全部で13人。

リラックスした雰囲気のあるクラス

それぞれの自己紹介によると：

- トーマス ハーバード大学に学ぶニューヨークからの大学院生。フランス、スペインの歴史を勉強しながらPH.D(博士号)に挑戦中という。
- アンソニー マイアミ生まれ。武術、柔術に関心がある。父親はキューバ人。教室でも野球帽をかぶったまま。
- ナナ スイスから。ずいぶん背が高く、180センチ以上はありそう。明るい行動派。
- サラ スイスから。幼稚園の教諭。彼女は小柄でキュート。ドイツ語、フランス語、英語ができる。
- ヘレン イギリスのサザンプトンから。大学生。このマラガ大学内に恋人がいるという。
- ファン 中国系アメリカ人。現在はアメリカの大学でアメリカ文学(詩)を教えているという。40歳くらいか。あごひげも生やし、なかなか活発な発言をする。
- カロリーナ スウェーデンから。母親はチリ人。両耳のピアスのほかに、鼻の先にも小さな金色の飾りをつけている。
- カリメラ ギリシャから。いかにもギリシャ美人か。彫りの深い顔にあふれるような豊かな胸。しかもタンクトップで教室に来たのには驚いた。

それに日本からのY君、K君、Cさん、Yさん。それぞれ日本の大学から在学留学の人、一度就職したが辞めて来た人等、異なった背景を持っています。そして、私、タケシ。教室ではすべてファーストネームで呼び合う。教師もクラスメートもみんな私のことを「タケシ」と呼ぶ。教師に対しても、私たち生徒も「ラウラ」(文法担当)、「ラファエル」(会話担当)とファーストネームで呼びます。

100人以上の生徒がいる学校全体で、日本人は6人。そのうちの5人が同じクラスになったのは、ほぼ同じレベルにあるとはいえ、あまりにも偶然でした。私ではできるだけ日本人だけでかたまらないように気をつけました。教師も「ここでは休み時間でも一切、母国語を使うな!」と厳命しています。それなのに我が同胞たちといたら...



清水武 Takeshi Shimizu 旅行作家  
世界文学紀行を定年後のライフワークに作品の舞台を訪ねている。  
東京都・昭島市在住  
<http://homepage2.nifty.com/donky/>